

GLORY

GLORY REPORT

グロリーレポート

トップメッセージ

『2017中期経営計画』の目標達成に向け、
着実に歩みを進めてまいります

p05

特集

高度な技術力で
世界に誇るグローリー製品を生み出す

p07

トピックス1

GLORYの顔認証技術

トピックス2

GLORY製品の海外導入事例

Contents

トップメッセージ	01	セグメント別の状況	03	特集	05
トピックス	07	財務データ	09	会社情報	10
株主メモ					

第71期
中間報告書

平成28年4月1日から
平成28年9月30日まで

グローリー株式会社



『2017中期経営計画』の
目標達成に向け、
着実に歩みを
進めてまいります

代表取締役社長

尾と宏和

平成29年3月期上半期の 経営環境と業績について

国内は金融市場、 海外は北米・欧州の販売が好調

当上半期の日本経済は、個人消費に足踏みがみられたものの、企業の設備投資や雇用情勢が改善傾向となるなど、緩やかな回復基調となりました。一方、世界経済につきましても、アジアは中国において緩やかな減速傾向となったものの、米国では回復傾向が続き、欧州でも緩やかながら回復の動きが継続しました。しかし、英国のEU離脱問題の影響等により円高基調が継続するなど、全体としては先行きが不透明な状況で推移いたしました。

このような経営環境の下、当社グループは、平成27年4月からの3ヶ年を計画期間とする『2017中期経営計画』の2年目として、諸施策を展開してまいりました。その結果、売上高は金融市場を除く各セグメントでの販売が低調に推移したことにより、前年同期に比べ若干減少いたしました。営業利益は、海外市場におけるプロダクトミックスの改善等により大幅に増加いたしました。経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益は、急激な為替変動に伴う為替差損の発生等により減少いたしました。

セグメント別にみますと、国内の金融市場では、マイナ

ス金利の影響が懸念されたものの、主要製品である「オープン出納システム」や窓口用「紙幣硬貨入出金機」の販売は更新需要や大口受注の獲得等により好調でありました。一方、流通・交通市場では、主要製品である「レジつり銭機」の販売は、小売店における現金管理の効率化、厳正化ニーズを確実に獲得したものの、大口受注があった前年同期に比べ低調に推移いたしました。遊技市場では、ホールの設備投資抑制傾向が続いており、主要製品である「カードシステム」等の販売が低調でありました。

海外市場では、金融機関向け窓口用「紙幣入出金機」や小売店舗向け現金管理システム「CASHINFINITY™」の販売が欧州において好調に推移し、「硬貨選別機」の販売も米州において好調でありました。一方、中国では市場競争が激化し、「紙幣整理機」の販売が伸び悩みました。

『2017中期経営計画』の進捗状況について

3つの戦略を強力に推進

『2017中期経営計画』の折り返し地点である当期は、目標の達成に向け、引き続き「事業戦略」、「機能戦略」、「企業戦略」の3戦略を展開しております。

まず、「事業戦略」では、海外市場で、より地域に密着した戦略を展開するために直販・直メンテナンスのネッ

平成29年3月期上半期の実績と通期の業績予想(連結)

()内数値は、前年同期(前期)比

	当上半期	通期(予想)	前期
売上高	1,023億43百万円 (- 1.7%)	2,200億円 (- 3.1%)	2,269億52百万円
営業利益	83億56百万円 (+24.3%)	190億円 (- 7.6%)	205億52百万円
経常利益	38億78百万円 (-42.0%)	150億円 (-14.7%)	175億83百万円
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益	21億36百万円 (-29.2%)	80億円 (- 9.4%)	88億29百万円

トワーク拡大を進めており、昨年のニュージーランドの販売代理店買収に続き、本年7月、ロシアの販売代理店「In-Tech, LLC」を買収いたしました。

また、「機能戦略」では、本年4月に米国のソフトウェア開発会社である「REV Ventures LLC」を買収するなど海外市場向け製品の開発力強化を進めるとともに、グローバル生産体制の最適化にも継続して取り組んでおります。

また、「企業戦略」におきましては、本年2月に、当社グループのさらなる持続的成長と中長期的な企業価値向上を図ることを目的として「コーポレート・ガバナンス・ガイドライン」を制定し、取締役会の実効性の分析・評価も実施いたしました。これらの評価結果を踏まえ、コーポレート・ガバナンス体制の強化に引き続き取り組んでまいります。

当期の業績見通しと株主還元について

国内外で積極的な販売施策を展開

下半期の事業環境につきましては、上半期と同様に、国内や欧米において良好な経済環境が継続すると見込まれますが、アジアの経済減速や円高の進行など、先行きは不透明な状況が続くと予想されます。

こうした状況のなか、当社グループは、国内の金融市場においては、主要製品の更新需要や新規受注を獲得

するとともに、「電子記帳台」等、非現金分野における製品の販売にも力を入れてまいります。流通・交通市場では、「レジつり銭機」を、まだ導入されていない業態へ積極的に販売してまいります。海外市場においては、欧米で窓口用「紙幣入出金機」の販売に注力するとともに、今後拡大が見込まれる中国においても同製品の導入を促進してまいります。また、小売店舗向け現金管理システム「CASHINFINITY™」につきましても、欧州に続き米国、アジアで販売を拡大してまいります。

これらの取組みを着実に実行し、当期の連結業績につきましては、売上高2,200億円、営業利益190億円、経常利益150億円、親会社株主に帰属する当期純利益80億円の達成を目指してまいります。

なお、当期の中間配当につきましては、株主のみなさまへの利益還元充実のため、期初予想の28円に2円を加え、1株につき30円とさせていただきます。期末配当につきましても、期初予想に2円を加えた30円(年間60円)を予定しております。

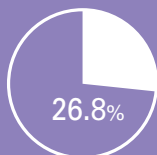
また、本年8月4日開催の取締役会において、200万株または60億円を上限とした自己株式の取得を決議し、資本効率の向上及び機動的な資本政策の遂行ならびに株主還元の充実を図っております。

株主のみなさまにおかれましては、今後ともなお一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

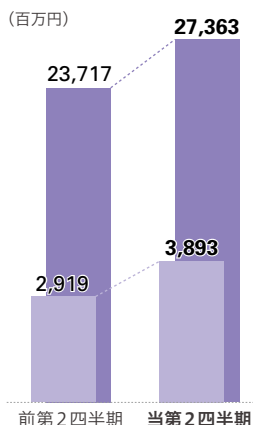
セグメント別の状況 (各期:4月1日~9月30日)

金融市場

売上高構成比



主な販売先
国内の金融機関
OEM先



■ 売上高 **+15.4%** ↗
■ 営業利益 **+33.4%** ↗

主要製品の販売が好調

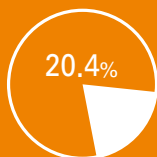
- 主要製品である「オープン出納システム」の販売は、中小規模店舗向けのコンパクトタイプが好調
- 窓口用「紙幣硬貨入出金機」の販売は、更新需要を捉え好調



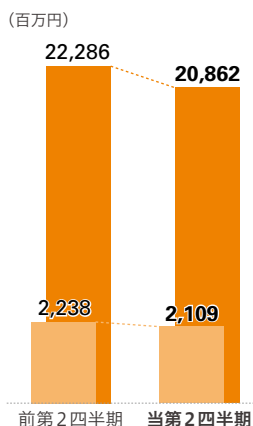
窓口用
紙幣硬貨入出金機
<RB-500>

流通・交通市場

売上高構成比



主な販売先
国内のスーパーマーケット
百貨店/警備輸送会社
鉄道会社
たばこメーカー
病院/自治体/企業



■ 売上高 **-6.4%** ↘
■ 営業利益 **-5.8%** ↘

「レジつり銭機」の販売が低調

- 主要製品である「レジつり銭機」の販売は大口需要の反動により低調
- 流通市場向け「売上金入金機」の販売も低調



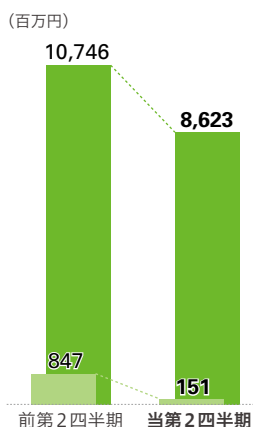
売上金入金機
<DSS-500>

遊技市場

売上高構成比



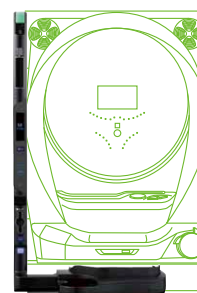
主な販売先
国内の遊技場
(パチンコホール等)



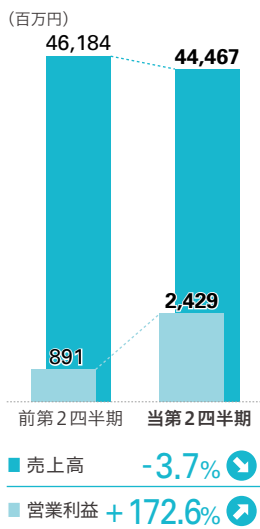
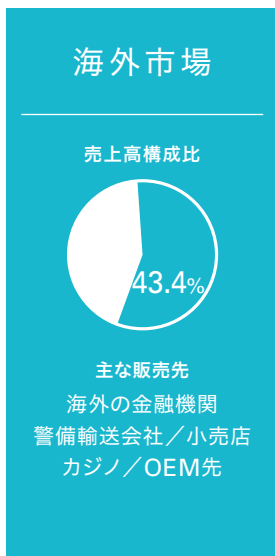
■ 売上高 **-19.8%** ↘
■ 営業利益 **-82.2%** ↘

「カードシステム」の販売が低調

- 主要製品である「カードシステム」等の販売は、ホールの設備投資抑制の影響を受け低調



G8 EXSIM
各台計数ユニット
<JCP-210>

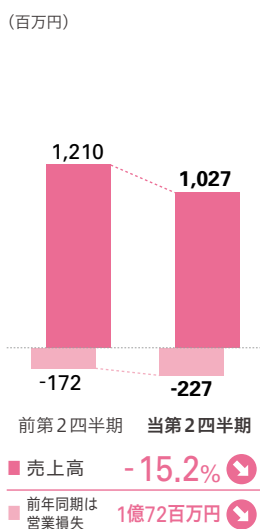


現地通貨ベースでの販売は好調

- 主要製品である「紙幣入出金機」及び流通市場向け「紙幣硬貨入出金機」の販売は、欧州において好調
- 「硬貨選別機」の販売は、米州において好調
- 市場全体としては、現地通貨ベースでは好調に推移したものの、円換算後の売上高は、円高の影響により前年同期並み



硬貨選別機
<Mach6>



「顔認証システム」の販売が低調

- 「顔認証システム」の販売は、小売店舗向けが低調



顔認証システム

セグメント区分の変更について

平成29年3月期第1四半期連結累計期間より、事業セグメントを見直したことに伴い、従来「その他」に含めていた当選金払出ユニットを「金融市場」に、たばこ販売機、診療費支払機、社員食堂システム及び自書式投票用紙分類機を「流通・交通市場」に区分変更しております。前第2四半期連結累計期間については、変更後のセグメント区分に組み替えた数値を記載しております。

セグメント	平成28年 3月期まで	平成29年 3月期より
金融市場		当選金払出ユニット
流通・交通市場		たばこ販売機
		診療費支払機
		社員食堂システム
		自書式投票用紙分類機
遊技市場		
海外市場		
その他		顔認証システム等



グローリーのコア技術である「認識・識別技術」と「メカトロ技術」。市場がグローバルに拡大するなか、これらの技術をどのように磨き、世界から求められる製品を生み出し続けていくのか。開発本部長の小谷が、今後の製品開発の展望を語ります。

高度な技術力で世界に誇る グローリー製品を生み出す

取締役常務執行役員 開発本部長
小谷 要

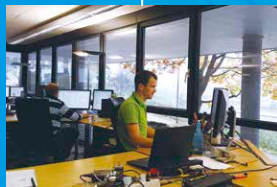
グローリーの製品開発体制について教えてください。

Question

当社グループでは、金融、流通・交通、海外といった市場ごとに製品開発を行っています。また、当社の強みであるコア技術を磨く部門や、将来の技術の種を育てる研究開発センターがあり、お客さまのニーズに応えるスピーディーな開発を行いつつ、新たな技術を生み

出せる体制となっています。また、海外には、4年前に買収したタラリス社の開発拠点であるスイスを中心に、英国、米国、ドイツ、ポルトガル、中国に拠点があり、国内外合わせて約1,000名の技術者が製品開発に携わっています。

グローバル開発拠点



スイス



本社(姫路)

平成24年に買収したタラリス社との開発面におけるシナジー効果は出ていますか。

Question

タラリス社の、あらゆる顧客に対応する優れたソフトウェア開発力と、当社の製品開発力が融合することで、高いシナジー効果が生まれています。特に、当社の主力製品である窓口用「紙幣入出金機」にタラリス社のソフトウェアを組み入れ、「モニタリングサービス」を提供できるようになったことは大きな収穫です。これにより、製品の状態を監視し、問題を未然に防ぐ予防保守

を行うことが可能となりました。

また、現在は、スイスの開発拠点に着目しています。スイスには優れた大学が数多くあり、優秀な学生やエンジニアが集まっていますので、産学連携による“オープン・イノベーション”を創出することで、新たな技術の種を生み出したいと考えています。

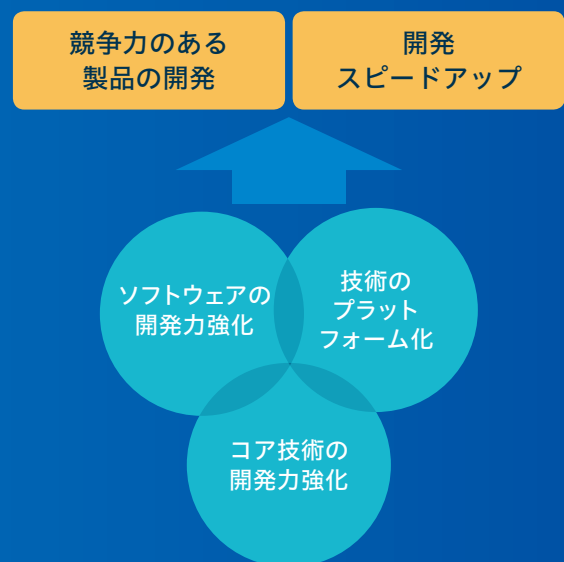
『2017中期経営計画』の開発戦略について教えてください。

Question

現在、『2017中期経営計画』における製品開発戦略として、「海外市場向け製品開発体制の強化」と「コア技術の開発力強化」を進めています。

まず、「海外市場向け製品開発体制の強化」についてですが、さまざまな国、市場においてお客さまのニーズを製品化していくためには、ソフトウェア開発力を強化する必要があり、社内の教育プログラムを充実させるなど、人材育成に力を注いでいます。また、本年4月に米国のソフトウェア開発会社の買収を行ったようにM&Aも視野に入れながら、グループ全体のソフトウェア開発力の底上げを図ります。

次に、「コア技術の開発力強化」についてですが、グローリー製品を開発するうえで、コア技術である「認識・識別技術」と「メカトロ技術」の強化は欠かせません。特に海外向けの製品は、さまざまな国の紙幣・硬貨を取り扱うため、高度な技術が必要であり、多くの人材を投入してコア技術の開発力強化を行っています。



また、グローバルな市場で戦うためには、スピーディーな開発も求められます。それを実現するために、ハードウェア、ソフトウェアそれぞれのプラットフォーム化を推進し、開発効率の向上に注力しています。

開発部門としてどのようなビジョンを描いていますか。

Question

通貨処理機のトップブランドであり続けるためには、新たな技術に挑戦し、活力のある製品開発を行っていかなくてはなりません。私は、グローリーの技術者には、常にチャレンジ精神を持ってもらいたいと思っています。そのために、「For Active and Creative Engineers! (活発で創造的なエンジニアを目指して!)」を合言葉

に活性化活動を行い、新しいアイデアを生み出す風土作りを行っています。

「お客さまの“こんなものがほしい”という思いを、私たちの技術で“かたち”にします」という開発ビジョンを胸に、これからも私たちは一歩先行く未来の製品を生み出し続けていきます。

トピックス1: GLORYの顔認証技術

「Pepper」と未来のサービスを創造します

平成15年に実用化されたグローリーの顔認証技術。その後も進歩を続け、近年では大規模商業施設やマンション、病院等さまざまな施設への導入が進んでいます。照合精度で業界トップクラスを誇る当社の顔認証技術は、私たちが住む社会の安全で快適な未来を支えます。こちらでは、当社顔認証技術の、「Pepper」に関する話題をご紹介します。

「Pepper」: ソフトバンクロボティクス株式会社が開発、提供する人型ロボット



「Pepper for Biz」の「Biz Pack」に採用

当社の顔認証技術が、「Pepper」の法人向けモデル「Pepper for Biz」の「Biz Pack」に採用されました。「Biz Pack」とは、「Pepper」が取得するデータ分析等の基本機能に加え、業務で活用できるロボアプリ等を、「Pepper」本体と併せて、ソフトバンクロボティクス社が提供するものです。当社の顔認証技術が「Pepper」の“目”となり、利用者の性別や年齢等を推定します。近年、ロボット技術の進歩により、ホテルや金融機関等で受付業務にロボットを活用する事例が増えています。ロボットが来店されたお客さまを特定できれば、サービス内容をカスタマイズするなどお客さまに合わせた多様なサービスの提供が可能となります。今後も当社は、あらゆるシチュエーションでの顔認証技術の活用に向け、さらなる研究開発に邁進してまいります。

グローリーが誇る 高精度なオンリーワン 顔認証技術

当社の顔認証技術は、紙幣・硬貨の識別や手書き文字の認識等に用いる技術を応用しています。顔全体に均等に配置した特徴点を基準に照合を行うことで、低画質な場合やサングラス等の影響がある場合にも性能が低下しにくく、安定した顔照合が可能です。

「Mizuho:hack」にて 最優秀賞を受賞

本年5月、株式会社みずほフィナンシャルグループと株式会社みずほ銀行が「Pepperと一緒に、全く新しい『銀行』というサービスを創る」をテーマとして開催したイベント「Mizuho:hack」に、当社チームが参加しました。当社は、「Pepperのみずほ銀行支店を5万店にしましょう『どこでもみずほ銀行支店』」をキャッチフレーズに、コンビニエンスストア、駅、病院、介護施設等、銀行があれば便利だと思われる街角のさまざまなロケーションに「Pepper」を配置し、みずほ銀行の支店業務を担ってもらおうという、未来の店舗のあり方の1つを提案し、最優秀賞を受賞しました。

受賞を喜ぶ当社チームメンバー



ワールドワイドに ますます活躍するグローリー製品

Postbank (ポストバンク)

ドイツの郵便銀行「Postbank」の約1,000店舗に、グローリー製品が導入されます。この度導入されるのは、窓口担当者が現金の入出金に使用する製品で、入金された紙幣・硬貨両方を出金用に利用できるという、欧州の金融機関向け製品として初めての機能を持ちます。また、お客さまに向けて設置し、お客さま自身が現金の入出金を行うことで、窓口担当者が現金に手を触れない厳正な運用スタイルにも対応。さらに、店舗全体の現金の在高を金種ごとに管理でき、その情報を現金輸送会社に配信することにより、現金の補充・回収を効率的に行うことも可能です。



ドイツのPostbank本社



Postbankとは

従業員19,000人、顧客数1,400万人、総資産1,480億ユーロ(本年6月現在)を誇るドイツ最大の金融機関の1つ。個人及び中小企業との取引を中心に事業を展開しています。

SHENGSIONG (シェンシヨン)

シンガポールのスーパーマーケット「SHENGSIONG」に、小売店舗向け現金管理システム「CASHINFINITY™」を組み込んだ決済端末が導入されました。店員がレジで商品のバーコードをスキャンした後、レジ後方に設置された本機で、買物客自身が代金の精算を行います。シンガポールの小売店舗にこのようなセルフ精算システムが導入されるのは初めてであり、従業員の手作業での現金計数やつり銭支払いを削減することにより、レジ業務のスピードアップとセキュリティの向上を実現しました。



SHENGSIONGの
レジカウンター



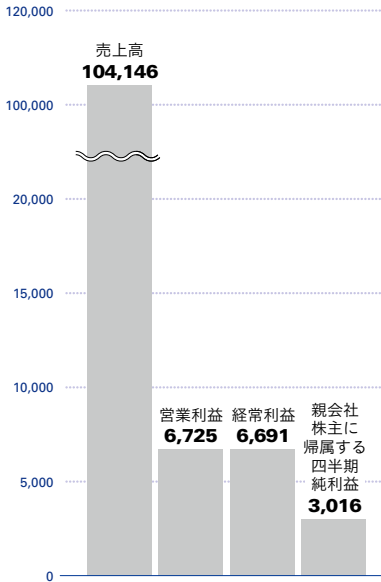
SHENGSIONGとは

シンガポールの大手スーパーマーケットの1つで、同国内に40店舗(本年5月現在)を展開しています。従業員は約2,000人、2015年の年間売上高は764.4百万シンガポールドル。

四半期連結損益計算書の概要 (単位:百万円)

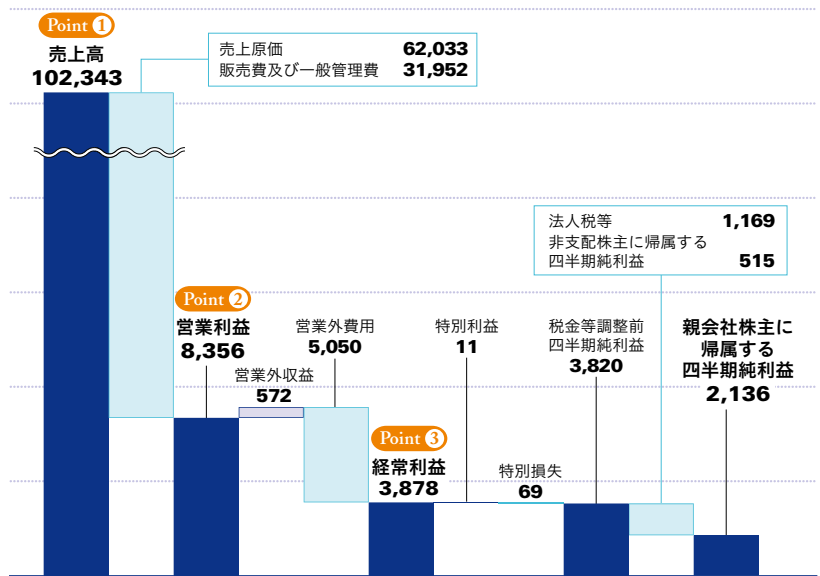
前第2四半期(累計)

平成27年4月1日から平成27年9月30日まで



当第2四半期(累計)

平成28年4月1日から平成28年9月30日まで



(単位:百万円)

前期

(平成27年4月1日から平成28年3月31日まで)

売上高	226,952
営業利益	20,552
経常利益	17,583
親会社株主に帰属する当期純利益	8,829

Point

① 売上高

金融市場を除く各セグメントでの販売が低調であったことから、前年同期に比べ1.7%減少しました。

② 営業利益

販売費及び一般管理費の減少に加え、海外市場でのプロダクトミックスの改善

や金融市場での売上高拡大等により、前年同期に比べ24.3%増加しました。

③ 経常利益

営業利益は増加したものの、急激な為替変動に伴う為替差損の発生等により、前年同期に比べ42.0%減少しました。

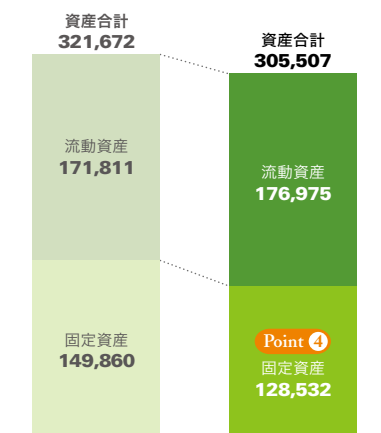
四半期連結貸借対照表の概要 (単位:百万円)

前期末

平成28年3月31日現在

当第2四半期末

平成28年9月30日現在

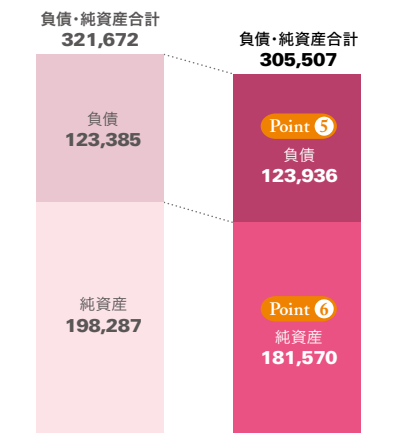


前期末

平成28年3月31日現在

当第2四半期末

平成28年9月30日現在



Point

④ 固定資産

タラリス社買収に伴う「のれん」の償却が進んだこと等により無形固定資産が減少し、前期末に比べ213億28百万円減少しました。

⑤ 負債

運転資金の増加等により、前期末に比べ短期借入金が157億75百万円増加したものの、タラリス社買収に伴う借入金の返済を進めた結果、長期借入金が57億24百万円減少しました。

⑥ 純資産

利益剰余金は増加したものの、為替換算調整勘定の減少により、前期に比べ167億16百万円減少しました。

会社情報 (平成28年12月2日現在)

会社概要

商号	グローリー株式会社 GLORY LTD.
設立	昭和19年(1944年)11月27日
資本金	12,892,947,600円
ウェブサイト	http://www.glory.co.jp
従業員数	3,270名(連結 8,348名) (平成28年9月30日現在)
本社	〒670-8567 兵庫県姫路市下手野一丁目3番1号 TEL：079-297-3131(代表)
事業所	本社・本社工場 (兵庫県姫路市) 東京本部 (東京都千代田区) 品川事業所 (東京都品川区) 埼玉工場 (埼玉県加須市) 姫路物流センター (兵庫県姫路市) 支店等 東北支店(宮城県)、関東支店(埼玉県)、 上信越支店(群馬県)、首都圏支店(東京都)、 東海支店(愛知県)、近畿支店(大阪府)、 中国支店(広島県)、四国支店(香川県)、 九州支店(福岡県) 39営業所、29出張所、3サービスセンター

連結子会社

【国内】

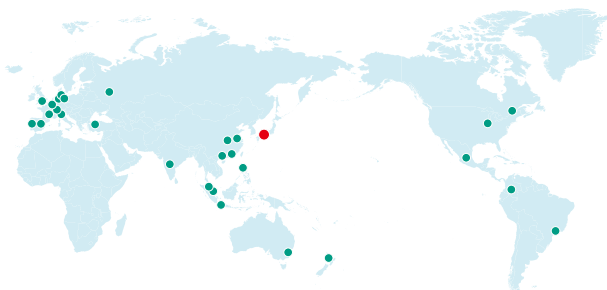
グローリープロダクツ株式会社
グローリーAZシステム株式会社
グローリーサービス株式会社
北海道グローリー株式会社
グローリーIST株式会社
グローリーナスカ株式会社
株式会社グローリーテクノ24

【海外】

光栄電子工業(蘇州)有限公司
GLORY (PHILIPPINES), INC.
Sitrade Italia S.p.A.
Glory Global Solutions Ltd.
Glory Global Solutions (International) Ltd.
Glory Global Solutions (France) S.A.S.
Glory Global Solutions Inc.
Glory Global Solutions (Singapore) Pte. Ltd.
Glory Global Solutions (Shanghai) Co., Ltd.

他28社

当社グループの主な拠点



役員一覧

取締役

代表取締役社長	尾上 広和
代表取締役	三和 元純
取締役	尾上 英雄
取締役	馬淵 成俊
取締役	小谷 要
取締役	原田 明浩
社外取締役	佐々木 宏機
社外取締役	新島 昭

監査役

常勤監査役	大谷 俊彦
常勤監査役	長島 正和
社外監査役	中上 幹雄
社外監査役	濱田 聡

株式の状況 (平成28年9月30日現在)

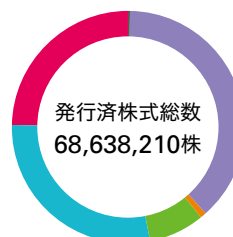
発行可能株式総数	150,000,000株
発行済株式の総数	68,638,210株 (自己株式 3,531,967株を含む)
株主数	6,234名(前期末比 188名増)

大株主

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
日本生命保険相互会社	3,427	5.0
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	3,363	4.9
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	2,783	4.1
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505223	2,282	3.3
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	2,173	3.2
株式会社三井住友銀行	2,100	3.1
グローリーグループ社員持株会	2,053	3.0
タツボーファッション株式会社	1,500	2.2
JP MORGAN CHASE BANK 385174	1,323	1.9
CBNY-GOVERNMENT OF NORWAY	1,209	1.8

(注)上記のほか、当社が所有している自己株式3,531,967株があります。

所有者別株式分布状況



政府・地方公共団体	0.2%
金融機関	38.7%
金融商品取引業者	0.5%
その他の法人	7.7%
外国法人等	28.5%
個人・その他	24.4%

株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 毎年6月に開催いたします。

基準日 定時株主総会 3月31日
期末配当 3月31日
中間配当 9月30日
その他必要があるときは、
あらかじめ公告して定めます。

単元株式数 100株

上場証券取引所 東京証券取引所 市場第一部

証券コード 6457

公告方法 電子公告によります。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。
[公告掲載URL]
<http://www.glory.co.jp>

株主名簿管理人／
特別口座の口座管理機関

三菱UFJ信託銀行株式会社

〔各種お問合せ先／
郵便物送付先〕

三菱UFJ信託銀行株式会社
大阪証券代行部

〒541-8502

大阪市中央区伏見町三丁目6番3号

TEL：0120-094-777 (通話料無料)

受付時間 9：00～17：00

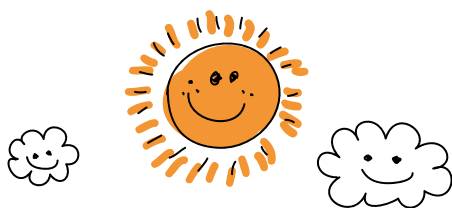
(土、日、祝祭日、年末年始を除く)

〔ウェブサイトアドレス〕

<http://www.tr.mufg.jp/daikou/>

(ご注意)

1. 株主さまの住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店でもお取扱いいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。



CSRトピックス



手づくりの積み木を子どもたちへ届けたい

当社は、環境保全と子どもたちの育成支援を目的に、「NPO法人森のライフスタイル研究所」の協力のもと、間伐材を利用した積み木づくりを行っております。

本年は6月8日に実施し、品川事業所の社員80名が参加いたしました。間伐材から積み木のピースを切り出した後、表面を丁寧にやすりで磨きあげ、合計400ピースの積み木を製作。完成した積み木は、品川事業所近隣の保育園に寄贈いたしました。

当社は今後とも、地域社会に貢献する活動を積極的に行ってまいります。



積み木で遊ぶ子どもたち



完成した積み木を
品川事業所近隣の保育園へ寄贈



地球環境保護のためにFSC®認証紙と大豆油インキを使用しています。